

第101期事業報告書

株主の皆様へ



平素は格別のご支援を賜り、有難く厚くお礼申し上げます。
第101期(平成13年4月1日から平成14年3月31日まで)の
事業報告書をお届けするにあたり、連結および単体を含め、会
社の近況をご報告申し上げます。

当期におけるわが国経済は、不良債権、過剰債務問題並びに
厳しい雇用情勢が民間需要を低迷させる一方で、行財政並びに
企業経営等の社会経済システムの抜本的な構造改革が推進さ
れたものの回復の兆しは見られないまま推移しました。

道路業界におきましては、公共事業予算の抑制傾向、従来型公共事業への投資配分の見
直しや地方自治体の財政難等により政府建設投資は前年度を下回りました。また、民間設
備投資は、生産および企業収益の低迷等を背景に減少に転じ、建設投資全体では大幅な
減少となり、受注環境は更に厳しいものとなりました。

このような環境の中で、当社は、全社を挙げて舗装土木工事の受注確保、製品の販売促
進並びに建築部門の強化等に努めるとともに、一段のコスト削減による収益力の向上に取
り組んでまいりました。

その結果を連結ベースで申し上げますと、当期の売上高は3,131億円、経常利益は77億
円、当期純利益は33億円となりました。

次期の経営環境につきましては、経済社会の構造改革の過程における調整期として、緊
縮予算の編成、個人消費の低迷、民間設備投資の減少が予想され、景気の先行きは極めて
厳しいものと思われます。道路業界におきましても、公共事業予算に対する抑制圧力は強ま
る傾向にあり、公共投資関係費の大幅な削減が見込まれております。また、民間設備投資の
回復の遅れにより、引き続き、厳しい受注環境になると予想されます。

このような長期化する厳しい経営環境下にあっても、当社は、技術と経営に優れた企業
として生き残るため、営業活動の強化拡充を最優先とし、コストダウン、間接部門の軽量化
を着実に進め、社会経済の変化への対応能力の向上と競争力強化を図ってまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも格段のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申
上げます。

平成14年6月

日本舗道株式会社

代表取締役社長 仁瓶義夫

日本舗道より PIARC 第11回 国際冬期道路会議札幌大会 開催 冬期舗装技術を世界に向け発信

2002年1月28日(月)～1月31日(木)の4日間、札幌ドームにて
アジアで初めての「PIARC 第11回 国際冬期道路会議札幌大会」が開催されました。

(ふゆトピア・フェアと共同開催)

PIARC(世界道路協会)は、道路および道路交通分野における唯一の国際機関として1909年に設立され(2001年10月現在、98カ国加盟) 道路政策・道路施工技术に関する情報提供を行っています。

今札幌大会での展示会では、「冬期道路サービスの新たな挑戦」をテーマに国内外より200もの関連企業・行政団体が出展し、入場者数が76,700人を超える一大イベントとなりました。

日本舗道は、寒冷期に適した舗装をテーマに、 ゴムロード(凍結抑制舗装)、 スーパーエスマック(機能性砕石マスタックアスファルト舗装)、 エコファイン(中温化混合物)を世界に向け情報発信しました。



大会セレモニー



日本舗道ブース



会場となった札幌ドーム

新工法スタート

DLペーブ (Double Layer Pavement)

2層同時舗設式舗装



施工状況 (福岡)

新工法DLペーブによる2層式排水性舗装工事が、2件行われました。

2層式排水性舗装は、通常の排水性混合物の上に小粒径の排水性混合物を重ね、2層構造とした低騒音舗装です。

工事概要

工事名：第108工区 ^{モモチハマ} ^{アタゴ} 高架橋舗装新設工事
 起工者：福岡北九州高速道路公社
 規模：5,133m²
 施工断面：排水性(8) 2cm
 排水性(13) 3cm

工事概要

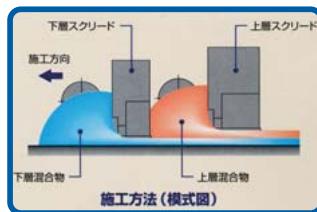
工事名：国道2号厚狭修繕工事 ^{アサ}
 起工者：国土交通省山口工事事務所
 規模：5,557m²
 施工断面：排水性(5) 2cm
 排水性(13) 4cm



施工後 (厚狭)

新工法「DLペーブ」とは

2種類の異なるアスファルト混合物を上下層に分けて同時に敷きながら、ローラで締め固めて仕上げる舗装です。施工には2層同時舗設型アスファルトフィニッシャー (DLペーブ)と材料供給機 (アスファルトローダ) を用います。排水性舗装用混合物以外にも、さまざまなアスファルト混合物、施工厚さの組み合わせが可能です。



特長

構造強化

層間がない一体構造により
 耐久性が向上

工期短縮

基層・表層を同時舗設

コスト縮減

カラー舗装等の特殊混合物の
 使用量減

施工方向



アスファルトローダ

DLペーブ

ロードローラ

タイヤローラ

ダンプトラックから受けた混合物をDLペーブに供給

2種類の混合物を上下層同時に敷きながら

上下層同時転圧

DLペーブの施工編成例

道路舗装材選定のための支援ツール

新景観舗装デザインシステム

HIGINS C&I バージョン2.0

周囲景観に調和した舗装材色を理論的かつ直感的に選定することができ、さらに作成された完成イメージを評価するシステムを開発しました。

システムの主な活用場面

住民主導型の合意形成プロセス

現況



もっと
イメージがいいな

私の住んでいる街はどんな
イメージなのだろう？

住民主導

- ・わかりやすい
- ・みんなで考え、
みんなで決める

落ち着いた
街にしたい



豪華な感じに
しようよ

もっと自然な
感じがいいわ

カラー・イメージ・スケールを
用いて客観的評価を行う



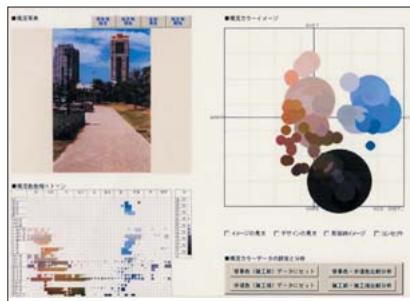
道路の色選定プロセス

色選定のフロー

1. 現況色彩分析
2. 要求イメージ・コンセプト選択
3. 推奨配色パターン出力とその絞り込み
4. コンセプト・カラーに合った舗装材選定
5. 完成イメージ作成
汎用フォトタッチソフトを使用
6. 完成イメージの分析

要求イメージに合っているかどうか、
カラー・イメージ・スケール上で確認

システム画面例



現況色彩分析

完成工事ハイライト



● 山陽自動車道
小野田舗装工事
【山口県】

● (仮称)口 - レルコ - ト
西条中央建設工事
【広島県】



● 札幌ドーム(仮称)外構工事
【北海道】



● 東宮土地区画整理事業
造成工事【宮崎県】



連結決算のご報告 (平成13年4月1日から平成14年3月31日まで)

経営成績

当連結会計年度の売上高は3,131億7百万円と前連結会計年度に比べて6.0%の減となりました。

営業利益は69億79百万円と前連結会計年度と比べて29.3%の減、経常利益は77億25百万円と前連結会計年度に比べて26.7%の減となり、当期純利益は33億53百万円と前連結会計年度に比べて22.2%の減となりました。

事業別の営業の成果

建設事業

当企業集団の主要部門であり、すべての連結会社が当該事業を営んでいます。

受注高は2,268億29百万円と前連結会計年度と比べて8.2%の減、完成工事高は2,292億3百万円と前連結会計年度に比べて10.3%の減、営業利益は59億70百万円と前連結会計年度に比べて26.6%の減となりました。

製造・販売事業

売上高は705億92百万円と前連結会計年度に比べて3.6%の増、営業利益は57億48百万円と前連結会計年度に比べて12.0%の減となりました。

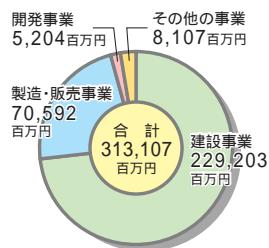
また、主たる製品であるアスファルト合材の製造数量は1,257万tと前連結会計年度に比べて1.0%の増、販売数量は909万tと前連結会計年度と比べて5.6%の増となりました。なお、連結子会社は当該事業を営んでいません。

開発事業

売上高は52億4百万円と前連結会計年度に比べて54.7%の増、営業損失は1億81百万円の損失となり前連結会計年度に比べて32百万円の減となりました。なお、連結子会社は当該事業を営んでいません。

その他の事業

売上高は81億7百万円と前連結会計年度に比べて33.0%の増、営業利益は3億88百万円と前連結会計年度に比べて1億75百万円の増となりました。なお、連結子会社は当該事業を営んでいません。



損益の状況

	第100期(平成12年度)	第101期(平成13年度)
売上高 (百万円)	333,027	313,107
経常利益 (百万円)	10,540	7,725
当期純利益 (百万円)	4,311	3,353
1株当たり当期純利益 (円)	36.82	28.64

財務の状況

	第100期(平成12年度)	第101期(平成13年度)
株主資本 (百万円)	162,644	160,347
総資産 (百万円)	361,452	324,987
株主資本比率 (%)	45.0	49.3
1株当たり株主資本 (円)	1,389.23	1,369.74

連結貸借対照表要旨

平成14年3月31日現在

資産の部	単位：百万円	負債の部	単位：百万円
流動資産	203,791	流動負債	143,877
現金預金	13,017	支払手形・工事未払金等	104,212
受取手形・完成工事未収入金等	119,927	短期借入金	2
未成工事支出金	24,871	未成工事受入金	13,445
たな卸不動産	32,493	その他	26,216
繰延税金資産	4,292	固定負債	20,329
その他	10,029	長期借入金	5
貸倒引当金	839	繰延税金負債	752
固定資産	121,196	退職給付引当金	10,765
有形固定資産	91,378	その他	8,806
建物・構築物	22,858		
機械装置・運搬具	10,181	負債合計	164,206
土地	56,980	少数株主持分	433
その他	1,358	資本の部	
無形固定資産	681	資本金	14,924
投資等	29,136	資本準備金	15,529
投資有価証券	19,070	連結剰余金	121,518
長期貸付金	6,796	その他有価証券評価差額金	8,380
繰延税金資産	482	自己株式	6
その他	8,521	資本合計	160,347
貸倒引当金	5,734	負債、少数株主持分および資本合計	324,987
資産合計	324,987		
(注) 1. 有形固定資産の減価償却累計額	91,534百万円		
2. 1株当たりの当期純利益	28円64銭		

連結損益計算書要旨

平成13年4月1日から
平成14年3月31日まで

	単位：百万円		単位：百万円
売上高	313,107	特別利益	4,148
営業費用	306,127	特別損失	5,350
営業利益	6,979	税金等調整前当期純利益	6,523
営業外収益	931	法人税、住民税等	3,162
営業外費用	185	少数株主利益	7
経常利益	7,725	当期純利益	3,353

連結剰余金計算書要旨

平成13年4月1日から
平成14年3月31日まで

	単位：百万円
連結剰余金期首残高	119,699
連結剰余金減少高	1,534
当期純利益	3,353
連結剰余金期末残高	121,518

連結キャッシュ・フロー計算書要旨

平成13年4月1日から
平成14年3月31日まで

	単位：百万円
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,206
投資活動によるキャッシュ・フロー	8,529
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,417
現金および現金同等物の増加額	6,740
現金および現金同等物の期首残高	19,597
現金および現金同等物の期末残高	12,856

営業の成果

当期の受注高は、2,877億69百万円と前期に比べて4.9%の減、売上高は、2,910億81百万円と前期に比べて6.0%の減となりました。

利益につきましては、受注競争の激化や公共工事のコスト縮減が進む中で、全社一丸となって努力してまいりましたが、経常利益は73億56百万円と前期に比べて28.1%の減となりました。

また、当期利益は32億35百万円と前期に比べて21.6%の減となりました。

なお、株主配当金につきましては、1株につき、普通配当9円、特別配当3円、合計1株につき12円とさせていただきます。

部門別営業の成果

工事部門

当期の受注工事高は、2,041億76百万円、これに前期からの繰越工事高を加えますと、当期手持工事高は2,788億48百万円となり、うち当期中の完成工事高は、2,070億10百万円となりました。

なお、受注工事高は、前期に比べて9.4%の減、完成工事高は、前期に比べて10.8%の減となりました。

製品部門

当期のアスファルト合材およびその他の製品販売の売上高は、707億59百万円となり、前期に比べて3.7%の増となりました。

開発事業等の部門

当期の開発事業等の受注高は、128億33百万円、売上高は、133億11百万円とそれぞれ前期に比べて41.9%の増、40.7%の増となりました。

業績の推移

	第98期 (平成10年度)	第99期 (平成11年度)	第100期 (平成12年度)	第101期 (平成13年度)
受注高 (百万円)	309,096 (7.3%)	294,173 (4.8%)	302,552 (2.8%)	287,769 (4.9%)
売上高 (百万円)	305,922 (10.0%)	292,038 (4.5%)	309,809 (6.1%)	291,081 (6.0%)
当期利益 (百万円)	2,656 (39.7%)	4,117 (55.0%)	4,127 (0.3%)	3,235 (21.6%)
1株当たり当期利益 (円)	22.69 (39.7%)	35.17 (55.0%)	35.26 (0.3%)	27.64 (21.6%)
総資産 (百万円)	324,411 (0.6%)	306,797 (5.4%)	349,357 (13.9%)	313,752 (10.2%)
純資産 (百万円)	137,007 (0.8%)	144,068 (5.2%)	159,175 (10.5%)	156,776 (1.5%)
1株当たり純資産 (円)	1,170.25 (0.8%)	1,230.56 (5.2%)	1,359.59 (10.5%)	1,339.24 (1.5%)

貸借対照表要旨

平成14年3月31日現在

資産の部	単位：百万円	負債の部	単位：百万円
流動資産	193,173	流動負債	137,161
現金預金	10,789	支払手形	23,923
受取手形	33,697	工事未払金	47,146
完成工事未収入金	60,372	買掛金	28,648
売掛金	17,524	未成工事受入金	12,409
販売用不動産	24,246	その他	25,033
未成工事支出名	23,353	固定負債	19,814
開発事業等支出金	8,310	繰延税金負債	754
繰延税金資産	4,148	退職給付引当金	10,334
その他	11,563	預り保証金敷金	8,047
貸倒引当金	833	その他	677
固定資産	120,578	負債合計	156,975
有形固定資産	90,968	資本の部	
建物・構築物	22,668	資本金	14,924
機械装置・運搬具	10,154	資本準備金	15,529
土地	56,801	利益準備金	3,731
その他	1,345	その他の剰余金	114,218
無形固定資産	644	任意積立金	108,973
投資等	28,963	当期未処分利益	5,244
投資有価証券	18,216	その他有価証券評価差額金	8,379
長期貸付金	6,781	自己株式	6
その他	9,563	資本合計	156,776
貸倒引当金	5,597		
資産合計	313,752	負債・資本合計	313,752

(注) 1. 有形固定資産の減価償却累計額 90,617百万円
2. 1株当たりの当期純利益 27円64銭

損益計算書要旨

平成13年4月1日から
平成14年3月31日まで

	単位：百万円		単位：百万円
売上高	291,081	税引前当期純利益	6,191
営業費用	284,422	法人税、住民税および事業税	6,200
営業利益	6,659	法人税等調整額	3,245
営業外収益	864	当期純利益	3,235
営業外費用	167	前期繰越利益	2,008
経常利益	7,356	当期未処分利益	5,244
特別利益	4,140		
特別損失	5,305		

利益処分

平成14年6月27日

当期末処分利益	5,244,325,466円
特別償却準備金取崩額	105,806,899
固定資産圧縮積立金取崩額	6,478,645
固定資産圧縮特別勘定積立金取崩額	43,794,100
計	5,400,405,110
これを次のとおり処分いたします。	
株主配当金	1,404,771,324
1株につき12円 (普通配当9円、特別配当3円)	
役員賞与金 (監査役分8,940,000円を含む。)	97,540,000
特別償却準備金	17,024,337
固定資産圧縮積立金	180,624,597
別途積立金	1,200,000,000
計	2,899,960,258
次期繰越利益	2,500,444,852

会社の概況

- 商号** 日本舗道株式会社
- 沿革** 日本石油株式会社と浅野物産株式会社の道路部が合併して設立されました。
- 設立** 昭和9年2月2日
- 営業種目** 道路建設工事 / 空港施設工事 / 工場・流通施設工事 / スポーツ・レジャー施設工事 / 各種舗装工事 / 一般土木工事 / 土地造成工事 / 上・下水道工事 / 造園・緑化工事 / 河川・港湾・海岸工事 / 防水・水利工事 / 一般建築工事 / 建築外構工事 / 建設資材の製造販売 / 土壌汚染調査、分析および浄化工事 / 産業廃棄物処理 / 建設コンサルタント業務 / 不動産取引業務 / ゴルフ場およびホテルの経営

資本金 14,924,503,088円

株式の状況 (平成14年3月31日現在)

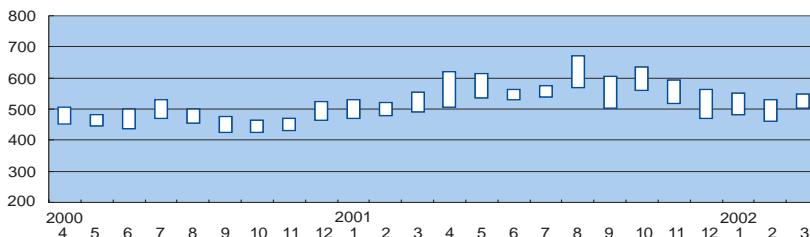
会社が発行する株式の総数	240,000,000株
発行済株式総数	117,075,836株
株主総数	11,569名

大株主の状況 (平成14年3月31日現在)

株主名		所有株式数		株主名		所有株式数	
		千株	%			千株	%
1	日石三菱株式会社	65,561	56.00	6	年金信託受託者三井アセット信託銀行株式会社	913	0.78
2	三菱信託銀行株式会社 (信託口)	5,447	4.65	7	パンカーストラストカンパニーノントリーティーアカウント	904	0.77
3	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	3,189	2.72	8	ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー	810	0.69
4	UFJ信託銀行株式会社 (信託勘定A口)	2,881	2.46	9	住友信託銀行株式会社 (信託B口)	777	0.66
5	資産管理サービス信託銀行株式会社 (証券投資信託口)	940	0.80	10	竹田和代	450	0.38

(注) 日石三菱株式会社は、平成14年6月27日付けで新日本石油株式会社に商号を変更しています。

株価の推移



取締役および監査役（平成14年6月27日現在）

代表取締役社長	仁 瓶 義 夫	取締役	田 中 公 毅
代表取締役副社長	小 林 芳 夫	取締役	上 濱 暉 男
代表取締役副社長	西 尾 博 三	取締役	高 橋 邦 碩
代表取締役専務	千 葉 功	取締役	石 倉 大 幹
専務取締役	佐 藤 正 之	取締役	加 藤 祥 俱
専務取締役	林 田 紀久男	取締役	青 木 淳 美
常務取締役	福 田 弘	取締役	丸 山 正 嗣
常務取締役	内 田 賀 春	取締役	佐 藤 博 樹
常務取締役	高 坂 賢三郎	取締役	松 本 孝 之
常務取締役	片 山 一	取締役	藤 居 光 夫
常務取締役	山 本 昌 司	取締役	横 山 茂
取締役	太 田 正 彦	取締役	渡 文 明
取締役	加 藤 忠 夫	常勤監査役	阿 部 道 弘
取締役	北 要 夫	常勤監査役	山 口 敬 太 郎
取締役	井 上 武 美	監査役	高 橋 明

事業所

本 社：東京都中央区京橋一丁目19番11号

技術研究所：東京都品川区東品川三丁目32番34号

支 店：北海道支店（札幌市） 関西支店（大阪市）
 東北支店（仙台市） 四国支店（高松市）
 関東第一支店（東京都新宿区） 中国支店（広島市）
 関東第二支店（東京都品川区） 九州支店（福岡市）
 北信越支店（新潟市） 関東建築支店（東京都新宿区）
 中部支店（名古屋市）

インターネットで当社に関する情報をご覧になれます。

ホームページアドレス <http://www.nipponhodo.jp>